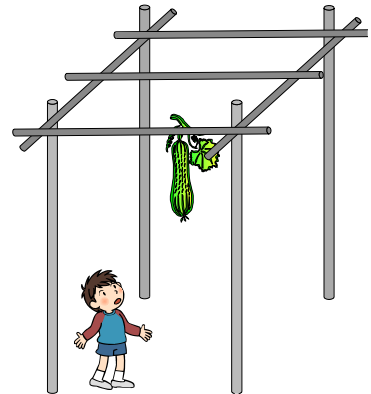


4年	ヘチマの育つ様子を目線で観察する
	育て方の工夫

実を作るのが目的の場合は、背の高い棚が便利ですが、観察が目的の場合は、目線の高さの棚が有効です。

季節による成長の変化をとらえることが主たるねらいですが、「単性花」などの新しい発見もたくさんあります。また、教材としては5年生が結実の条件で利用する場合も考えられるため、できる限り目線で観察できるような方法を考えたいものです。

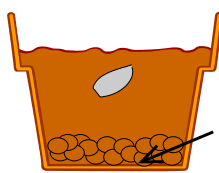
背の高いヘチマ棚であるとヘチマがなるためには適しているが、観察することが困難である。



## 1 ヘチマ・ツルレイシの苗作り

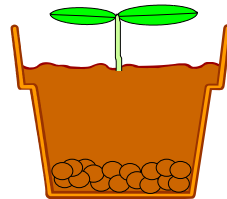
温度が低いと発芽までに時間がかかる。  
種まきは5月上旬～中旬に行いたい。

9cm鉢に園芸用土を入れ、  
種子を埋め込む

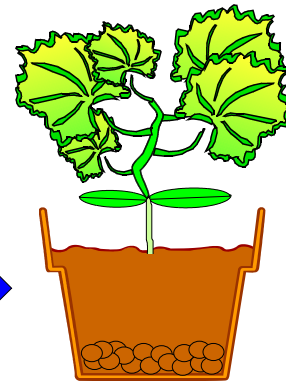


大粒赤玉土

子葉はナメクジに食べられ  
やすいので注意が必要

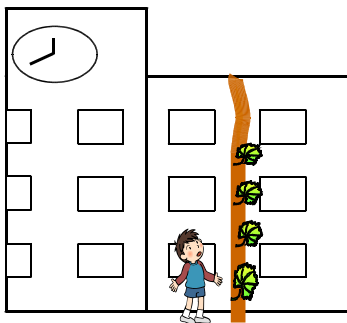


葉4～6枚で定植

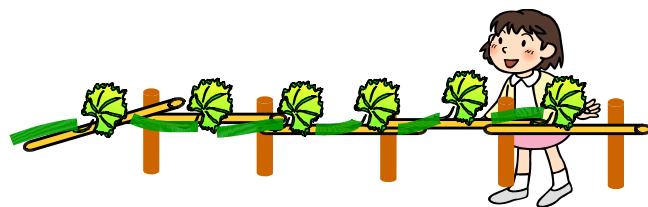


## 2 栽培方法の工夫

校舎の屋上へ向けて成長させる。  
成長の測定方法の工夫が必要。



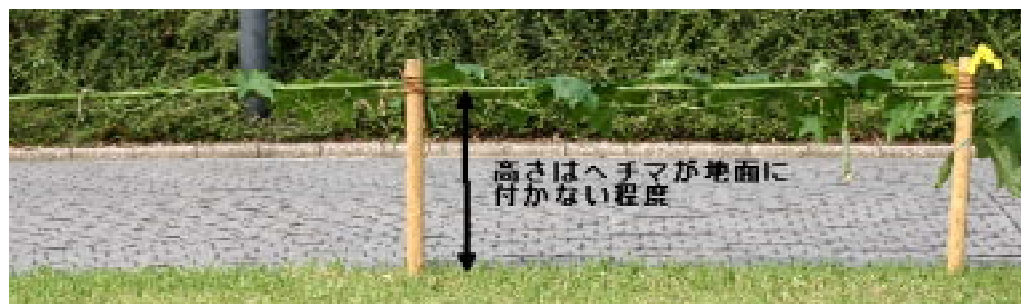
目線の高さで成長させる。  
80cm程度の高さのところ  
ツルを水平に伸ばす。



目線の高さで水平方向に成長させることの利点

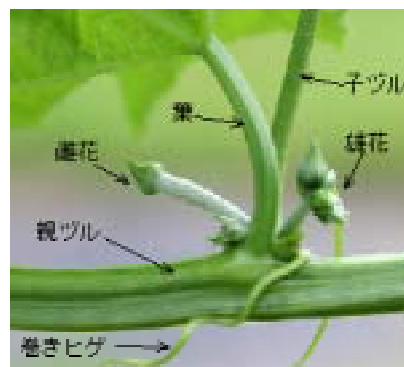
- ・成長を長さで測定しやすい。
- ・雄花や雌花，巻きヒゲなどの観察がしやすい。
- ・棚を作るのが簡単。使用後は撤去できる。

### 3 水平に一直線に伸ばす栽培



親ヅルをひもで棚に誘引しながら直線上に栽培していく。

- ・直線の成長をはっきりさせるためには、子ヅルは切断し、親ヅルのみの1本立てとする。
- ・直線状に成長していくので、1週間毎にツルの先端までの長さを測定する。
- ・右写真のように節ごとに親ヅルから1枚の葉、子ヅル、雌花、雄花が出るのがわかる。



最も注意することは、親ヅルの先端が風で折れないようにひもで誘引することである。

あまり風通しの良いところは避けた方がよい。

90cmのプランター（深型）をベランダに設置し、ベランダの端から端へ誘引しながら栽培する方法もある。子どもは窓越しに観察することになるが、壁面緑化をすることで教室内の気温が下がり、環境教育の教材として発展させることもできる。

### 4 栽培の留意点

- ・ヘチマ、ツルレイシ共に気温が高くなるまでは成長がゆっくりで、初夏からぐんぐん成長してきます。しかし、初夏の成長のためにはそれ以前に根が十分に発達している必要があります。  
根を乾燥から守るために株元に敷き藁や枯れ草などを置く。
- ・根は浅く広く伸びます。  
定植の前に広く耕し、有機質の元肥を入れる。
- ・一度に多量の肥料は施さない。  
1～2週間毎に化成肥料を与える。
- ・梅雨明け後は朝・晩2回灌水するとよい。（休日は1回）



#### どうも育ちが悪いんだけど・・・連作障害？

同一場所で毎年同じ作物を栽培することを連作といい、ヘチマやツルレイシなどのウリ科の作物は連作に弱い（連作するとうまく育たない場合がある）と言われています。しっかりと固定されたヘチマ棚を利用する場合には、場所を動かすことができないので、事前に石灰や堆肥などを多めに入れてよく耕す必要があります。